

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習 I6 (Seminars I6)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	研究手法を学ぶ: イスラーム化以降の中東(西アジア)地域研究		
担当者名 (Instructor)	神田 惟(KANDA YUI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	HIS2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・イスラーム化以降の中東を中心とした地域の歴史、宗教、文化(美術・建築含む)、経済、政治を研究するために必須なアカデミック・マナーおよびアカデミック・スキルを習得する。
- ・ひとつのトピックについて、著者による見解の相違があることを認識する。
- ・自分が実行な研究方法とは何なのかをよく考えて、卒論に何らかの形でつながるテーマを見出す。
- ・他の受講生の発表を理解した上で、建設的な助言・質問を行う力を身につける。

This course is designed to provide the students with an opportunity to develop their academic skills in conducting research in history, religion, culture (including art and architecture), economy, and politics in the Middle East and other areas after the Hijra, the migration of the Prophet Muhammad and his followers from Mecca to Medina in 622. There are required to recognize the different views among scholars on a particular topic, seek the feasible and suitable methods for writing the BA thesis, and obtain skills in formulating questions and giving constructive feedbacks to the classmates.

授業の内容(Course Contents)

イスラーム化以降の中東を中心とした地域の歴史、宗教、文化(美術・建築含む)、経済、政治に関して、各自が興味・関心をもつテーマを設定し、そのテーマに関する複数の史料や参考文献を収集し、適切なアウトプットの方法を学ぶ(第1回)。

続く第2回から第6回までは、当該テーマについてどのような学問的手法でアプローチし、リサーチ・クエスチョンを立てるつもりであるかについて、クラス全員と情報を共有する。

さらに第7回から第13回までの研究報告では、各回の担当者(1名もしくは2名)に対し、以下のいずれかを行うことが求められる: ①自らのリサーチ・クエスチョンが生じた背景について、複数の先行研究をふまえて報告する or ②先行研究の中で特に重要であると考えられる論文・図書1点の内容について紹介した上で、適切に批評する。

研究報告の進め方、各々の発表に対するフィードバックの方法の詳細については初回授業時に説明する。

The students are required to select a certain topic about history, religion, culture (including art and architecture), economy, and politic in the Middle East and other areas after the Hijra and search for the primary and secondary documents on that topic (Class 1). Then, they will share the information about their methodology and approach with the classmates (Class 2, 3, 4, 5, and 6). Finally, they should either 1) report on the background of their research question or 2) summarize and critically analyze the previous study which they believe to be important, by giving a powerpoint presentation (Class 7, 8, 9, 10, 11, 12, and 13). The detailed instructions for the assignments will be provided in class.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス: 本演習の目的と概要の説明およびゼミメンバーの関心の所在の把握
アウトプットの方法: 論文の読み方と書き方(適切な注や参考文献一覧の書き方についての作法を含む)に加え、パワーポイントを用いた効果的な研究発表のコツを学ぶ。
2. リサーチ・クエスチョンの立て方の検討①: 担当者 A, B, C が研究進捗状況の報告を行なったのち(各 30 分程度)、クラス全体でそれらに対して質問し助言を行う。
3. リサーチ・クエスチョンの立て方の検討②: 担当者 C, D, E が研究進捗状況の報告を行なったのち(各 30 分程度)、クラス全体でそれらに対して質問し助言を行う。
4. リサーチ・クエスチョンの立て方の検討③: 担当者 F, G, H が研究進捗状況の報告を行なったのち(各 30 分程度)、クラス全体でそれらに対して質問し助言を行う。
5. リサーチ・クエスチョンの立て方の検討④: 担当者 I, J, K が研究進捗状況の報告を行なったのち(各 30 分程度)、クラス全体でそれらに対して質問し助言を行う。
6. リサーチ・クエスチョンの立て方の検討⑤: 担当者 L, M が研究進捗状況の報告を行なったのち(各 30 分程度)、クラス全体でそれらに対して質問し助言を行う。
7. 担当者 A と B が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。

8. 担当者 C と D が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。
9. 担当者 E と F が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。
10. 担当者 G と H が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。
11. 担当者 I と J が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。
12. 担当者 K と L が研究報告を行う(質疑応答で 50 分 x2)。
13. 担当者 M が研究報告を行う(質疑応答で 50 分)。
14. 報告予備日。全体の総括と最終レポート作成に関する注意点の説明を行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必ず、次回の演習で扱う研究書・論文を予習した上で授業に臨むこと。研究報告後の全体討議で得た助言や質問等を参考にし、最終レポートをまとめること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 研究発表 x2(1回目:10%、2回目:30%)(40%) / 発表者に対する助言・質問および全体討議への貢献度(20%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。必要に応じて、授業時に配布する。

参考文献(Readings)

1. 小杉泰, 林佳代子, 東長靖編, 2008、『イスラーム世界研究マニュアル』、名古屋大学出版社 (ISBN:9784815805944)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

最終レポートの提出にあたっては、Blackboard を利用すること。初回授業時に操作方法を説明するので、ログインに必要なIDとパスワードを確認しておくこと。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/Home.aspx>

注意事項(Notice)